

学術情報センター（図書館）は、各学部、各研究科及び研究所等の教育並びに研究に必要な学術情報を広くかつ系統的に収集管理することにより、学生及び教職員等の利用に供し、本学の教育・研究活動を支援することを第一義としている。さらに、学生が幅広い教養を培い、豊かな人間性を涵養するための情報を収集し、提供していく機関として、図書館活動を展開している。近年の図書館を取り巻く環境の変化に対応すべく、紙媒体のみならず電子媒体の活用をも重視し、多様な情報収集活動を展開していく。

事業項目としては次のとおりである。①所蔵書誌データの電子化の推進と OPAC (Online Public Access Catalogue) の活用による迅速な資料提供。②近年の研究活動に不可欠とされる電子ジャーナルや学術データベースの積極的な導入。③研究室や自宅の端末から行える「資料貸出予約」、「文献複写予約」、「新着図書通知情報」等のサービス。④迅速かつ経済的な図書発注システムへの変更。⑤当センターが所蔵する古典籍資料、貴重図書資料のデジタル・アーカイブ化推進。⑥国公立大学間の図書館相互協力（ILL）の活用。

なお、今後の検討事項として図書収蔵スペースの確保について、全学的な視野に立って検討を始める予定である。

また、当センターは平成17年度から2年間私立大学図書館協会の会長校の任にあるが、他大学図書館との協力関係のもと大学図書館のあり方を模索しながら、その責務を全うすることとする。

1) 図書・学術情報を活用した教育支援

本学が擁する7学部1短大の専門分野を視野に入れた蔵書構成の充実をはかるとともに、学生の学習用図書及び基本図書を広く収集し、利用者のニーズにあった図書等の収集に努める。さらに、利用しやすい図書館を目指し次のとおり利用者教育の充実にも努めている。①シラバスに基づいた選書。②新入生対象のOPACによる蔵書検索方法を中心とした図書館利用についての説明。③一般学生や個々のゼミを対象とした各種学術用データベースの講習会実施。④年2回発行の図書館報『来・ぶらり』による利用者へ情報提供。⑤所蔵するコレクションの展覧を定期的開催等。これらの図書館利用促進を教育支援の一環と位置づけ、一層の充実に努める

2) 図書・学術情報を活用した研究支援

各教員の独自の研究活動を支援するために紙媒体の図書を収集する一方、電子ジャーナルや学術データベース等の電子資料の充実利用を促進する。本学で利用できる電子ジャーナルの数は1,696種、データベースの数は32種。特に学術データベースは、研究上必要とする資料収集のために不可欠な検索ツールとの認識から利用率アップにつとめ、学外(自宅)からもアクセスできる方策を検討している。また、大宮図書館が所蔵する古典籍や貴重書へのアクセスを保障するシステムの整備が必要とされており、当センターでは「龍谷大学古典籍デジタル・アーカイブ研究センター」における研究成果を引き継ぎ、本学が所蔵する貴重資料のデジタルアーカイブ化に取り組み、Web上に公開し、情報発信を目指す予定である。

3) 図書・学術情報利用環境の整備

大宮図書館の改修工事が完成したことに伴い、平成18年度は一層の利用環境の向上をめざす。深草図書館では、玄関の自動ドア化、閲覧室の机・椅子等の什器のリプレースを行い、閲覧席での無線LANシステムの導入については3館とも行う。深草図書館・瀬田図書館における視聴覚機器についても新機種への更新を行う予定である。また、深草図書館地下書庫に所蔵する研究用図書について書籍クリーニングを行いカビの発生を除去する環境を整える。さらに、深草図書館で所蔵する貴重書についても、裏打ち等の資料の修繕、酸性紙資料の対応等を行い適切な方法で保存していく。日曜開館はすでに深草図書館、瀬田図書館で一定期間実施しているが、平成18年度からは大宮図書館でも実施する。